

July 2024

Smarter Data Management Playbook 2024

AIイノベーションのバックボーン構築



Simon Piff
バイスプレジデント
Future of Digital Infrastructure



Linus Lai
バイスプレジデント
Software and Services

eBook, sponsored by

Lenovo



はじめに

2023年、IDCは「CIO Playbook 2023」を発行し、アジア太平洋地域の企業が優先的に投資している主要分野を紹介した。これに続き、「Smarter Data Management Playbook 2023」では、データ駆動型イノベーション、統合データ管理、ガバナンスについて検討した。2024年初頭にはAI（Artificial Intelligence：人工知能）に焦点を合わせた「CIO Playbook 2024」を発行している。レノボはこれらのインサイトを基に、2024年におけるAIのデータ管理についてさらに掘り下げるフォローアップ資料「Smarter Data Management Playbook 2024」の作成をIDCに委託した。

CIO Playbookシリーズ

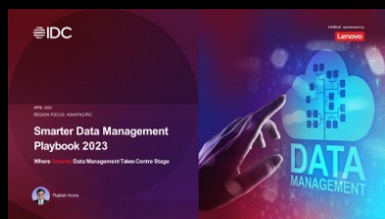


CIO Playbook 2023



CIO Playbook 2024

Smarter Data Managementシリーズ



Smarter Data Management
Playbook 2023



Smarter Data Management
Playbook 2024

「Smarter Data Management Playbook 2024」は、主にアジア太平洋地域市場の550人のCIOおよびIT/ビジネス意思決定者（ITBDM）を対象に実施した調査に基づき、データセキュリティ、AIモデルの健全性、データアーキテクチャと管理、データ主導のエンタープライズIT戦略に関するインサイトを提供します。

貴社のデータ管理およびAIイニシアティブの向上に役立つ詳細なインサイトと検討事項をお読みいただければと思います。

はじめに

CIOの戦略的な重要課題

以下に、550人以上のITおよびビジネスの意思決定者（ITBDM）を対象にIDCが実施した調査から得られた4つのキーインサイトと、CIOが2024年にデータ管理を強化し、アジア太平洋地域の企業に競争力を獲得させるための戦略的な重要課題を示す。

キーインサイト

2024年とそれ以降のCIOの検討事項



「データの保護」 | データセキュリティ

事実：アジア太平洋地域の企業の30%が、2024年のデータ管理における最優先事項として、データセキュリティを挙げている。

推論：AIシステムによって膨大な量のデータが処理、保存されており、データのプライバシーとセキュリティの保護が不可欠になっている。信頼を維持し、プライバシーを保護し、AIを活用した意思決定プロセスの整合性を確保するには、堅牢なデータセキュリティの確保が不可欠である。

- 現在のセキュリティ制御が、AIを活用した生産性、ビジネス機能、新製品/サービス開発の目的に適合していることを確認すべきである。
- 機密データのロード時に、ネットワーク、アプリケーション、エンドポイント、ハイブリッドマルチクラウドインフラストラクチャによってデータ保護が優先されるようにすべきである。
- AIアプリケーション（開発したか購入したかを問わない）の構造を分析し、倫理、プライバシー、社会的責任を確保することによって、信頼を醸成すべきである。



「データの形式的誤謬に注意する」 | AIモデルの完全性

事実：IDCの調査結果では、GenAIの使用および有用性で企業が直面するデータ品質上の最大の課題は「未知または未検知の偽情報や誤った情報を用いたAIトレーニング」である。

推論：堅牢なデータ品質を保証できなければ、データに焦点を合わせたイニシアティブが失敗に終わる可能性がある。たとえば、欠陥のあるトレーニングデータによってAIモデルが破壊され、企業は貴重な時間とリソースを無駄にするほかにも、新たなリスクにさらされる可能性がある。

- 使用する大規模言語モデルのデータ完全性を保証するデータガバナンスおよびAIガバナンスプラクティスを実装すべきである。
- あらゆる第三者およびオープンソースのGenAI（GenAI）コード、データソース、リネージ、学習済みモデルの使用を評価、追跡するためのガイドラインを策定すべきである。
- モデルの使用によって自社のデータおよび知的財産のコントロールが損なわれないようにすべきである。



「急がば回れ」 | データのアーキテクチャと管理

事実：29%の企業が、自社のデータイニシアティブに関連する主な課題として、「データ管理の複雑さ」を挙げている。

推論：データが従来アプリケーションおよびビジネスプロセスに依存しており、企業全体でデータのサイロ化をもたらしている。このようなサイロを解消せずにAIユースケースの実装を急いで進めると、最適な成果が得られず、実現が長期化することになる。

- 権限を持つ部門横断的チームを立ち上げ、アプリケーションやプロセスの障壁によって生じる社内のデータサイロを特定すべきである。
- データのディスカバリー、カタログ化、アクセス、更新、共有、使用のポリシーを合理化し、データサイロを解消するデータ戦略を策定すべきである。



「インフラストラクチャ戦略にデータを役立てる」 | データ主導のエンタープライズIT戦略

事実：アジア太平洋地域の企業のデジタルインフラ戦略における最大の検討事項として、DataOpsの位置づけが、最適なインフラストラクチャ環境において、ワークロードの位置づけよりも高くなっている。

推論：顧客はインフラストラクチャの選択に関してワークロードに基づく意思決定よりもデータに基づく意思決定を行っており、数年前から傾向が大きく逆転している。

- 自社のデータおよびインテリジェンス戦略から、将来の目標に対する現在のデジタルインフラストラクチャ資産およびレイバリティを評価し、デジタルインフラストラクチャのフットプリントにおける主なギャップを特定すべきである。
- デジタルインフラストラクチャのレイバリティと期待するビジネス目標のギャップを埋めるのに役立つデジタルインフラストラクチャのアーキテクチャおよびテクノロジーの選択肢を特定し、必要なデジタルインフラストラクチャ運用モデルの変革に取り組むべきである。

地域別のインサイト

地域別のインサイト

データの管理：
AI時代における成功の基盤

AIの世界におけるデータの確保と保護

AIモデルの健全性：データソースに
対する誤情報の混入問題

データのアーキテクチャと管理を
正確に理解する

モデルの逆転：データ主導の
インフラストラクチャ戦略

業種別および市場別
のインサイト

Data Management
Playbook 2024 調査手法

データの管理：AI時代における成功の基盤

以下に、550人以上のITおよびビジネスの意思決定者（ITBDM）を対象にIDCが実施した調査から得られた4つのキーインサイトと、CIOがデータ管理を強化し、アジア太平洋地域の企業に競争力を獲得させるため、2024年に重要となる戦略的課題を示す。

2023年のデータ駆動型イノベーションに関する主な課題

- 1 データ保護とサイバーセキュリティ
- 2 ハイブリッド/マルチクラウド間のデータモビリティ
- 3 AI/MLを活用したワークロードミックスの増加

2024年のデータ管理の優先事項

- 1 データセキュリティ
- 2 AIプロジェクト用のデータの準備
- 3 データアーキテクチャ

「CIO Playbook 2024」では、データ管理に関する企業の主な優先事項として、データのセキュリティ、データレパレーション、アーキテクチャを挙げた。

データセキュリティは2023年と2024年で継続して企業のデータ関連の最重要事項となっているが、この2年でいくつかの目に見える大きな変化が徐々に進んできた。

- 企業は自社のAIイニシアティブにとってデータの品質が極めて重要であることを認識しており、データレパレーション（クリーニング、リネージ保証、変換、拡張、ガバナンスなど）を重視している。
- 堅牢なデータアーキテクチャの必要性は、企業のデジタルインフラストラクチャのアーキテクチャよりも優先されている。



地域別のインサイト

データの管理：
AI時代における成功の基盤

AIの世界におけるデータの確保と保護

AIモデルの健全性：データソースに
対する誤情報の混入問題

データのアーキテクチャと管理を
正確に理解する

モデルの逆転：データ主導の
インフラストラクチャ戦略

業種別および市場別 のインサイト

Data Management Playbook 2024 調査手法

スポンサーメッセージ
Lenovoを選ぶ理由

重要課題 #1

AIの世界におけるデータの確保と保護



2024年に企業が最優先しているイニシアティブ

- 1 データセキュリティ
- 2 分析用データストア
(例：データレイク、データウェアハウスなど)
- 3 ランサムウェア保護のためのデータバックアップとリカバリー
- 4 クラウドへのデータの移行
- 5 データサイロの削減

信頼できるAI運用を維持し、システムダウンを低減して、AI主導のインサイトとサービスの整合性と可用性を維持するには、安全で信頼性の高いビジネスクリティカルなデータへの途切れることのないアクセスが不可欠である。

当然ながら、データセキュリティおよびデータのバックアップ/復元が、2024年に企業が優先させるデータ関連のイニシアティブとして認識されている。

CIOに対する推奨事項

社内のIT資産全体に渡り、AIを活用した生産性とイノベーションのイニシアティブをサポートする重要なデータに関連するセキュリティ制御とレジリエンスのメカニズムを評価し、向上させるべきである。

地域別のインサイト

データの管理：
AI時代における成功の基盤

AIの世界におけるデータの確保と保護

AIモデルの健全性：データソースに
対する誤情報の混入問題

データのアーキテクチャと管理を
正確に理解する

モデルの逆転：データ主導の
インフラストラクチャ戦略

業種別および市場別 のインサイト

Data Management Playbook 2024 調査手法

重要課題 #2

AIモデルの健全性：データソースに対する誤情報の混入問題

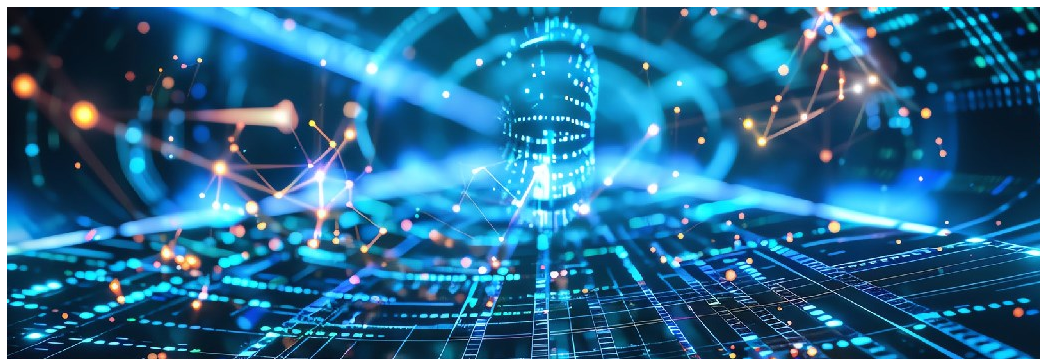
AI/GenAIの使用時のデータ品質に対する主な懸念事項

- 1 未知または未検知の偽情報や誤った情報を用いたAIトレーニング
- 2 タグのないデータ/出所不明なデータ
- 3 データ品質保証の欠如

企業内でのAI/GenAIのさらなる利用を制限する最大の要因

- 1 データや知的財産のコントロールが脅かされることへの懸念
- 2 ブランドリスクや規制上のリスクにさらされる懸念
- 3 正確性または潜在的悪影響に関する懸念

Source: IDC syndicated research



AIプロジェクト用に堅牢なデータを準備することは、企業の増え続けるAIイニシアティブ全般がビジネス価値と望ましい結果をもたらすために非常に重要である。

企業はAIの利用に関してデータ品質に大きな懸念を持っており、このような懸念がAIやGenAIを広く採用することを潜在的に制限しているとIDCはみている。大規模言語モデル（LLM）内のソースデータやトレーニングデータの侵害は、悪意のあるものか不十分な管理によるものかを問わず、AIモデルのデータ品質を低下させ、企業のビジネスやサービスに甚大な影響をもたらすだけでなく、企業が多数の新しいリスク（評判、法的、財政上）にさらされる可能性がある。

CIOに対する推奨事項

データの整合性を保証する包括的なデータおよびAIガバナンスフレームワークを確立し、重要なデータや知的財産をコントロールして、さらにすべての第三者やオープンソースのGenAIリソースを評価し追跡するためのガイドラインを盛り込むべきである。

さらに、CIOは外部のオープンソースデータセットやライブラリーを活用して自社のLLM/データセットを補完することを検討すべきである（例：検索拡張生成（RAG）のような方法の活用）。

地域別のインサイト

データの管理：
AI時代における成功の基盤

AIの世界におけるデータの確保と保護

AIモデルの健全性：データソースに
対する誤情報の混入問題

データのアーキテクチャと管理を
正確に理解する

モデルの逆転：データ主導の
インフラストラクチャ戦略

業種別および市場別
のインサイト

Data Management
Playbook 2024 調査手法

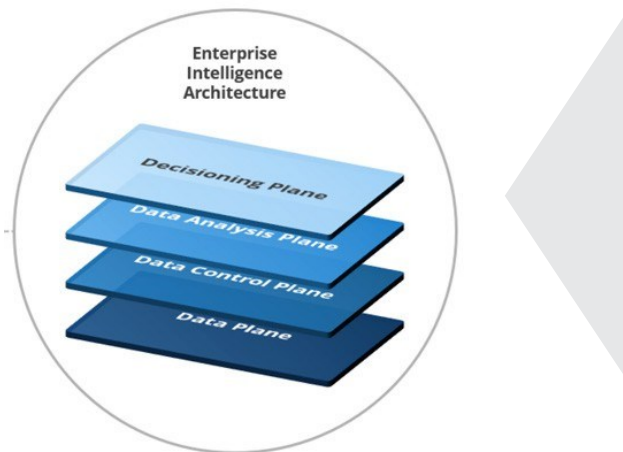
重要課題 #3

データのアーキテクチャと管理を正確に理解する

50%の企業が、自社へのGenAIの導入を成功させる上で、データ管理とガバナンスがデジタルインフラストラクチャの最大の課題であると考えている。

企業のインテリジェンスアーキテクチャによる成果の品質は、下位のデータ層によって意思決定層がいかによくサポートされるかによって決まる。一方で、今日の企業はデータ層間で統合された戦略、アーキテクチャ、管理機能を持っておらず、複数のデータサイロに悩まされており、これが企業のインテリジェンスアーキテクチャの有効性を損なっている。

最大の焦点である インテリジェンスアーキテクチャ



Source: IDC syndicated research

意思決定のインテリジェンス、ルールエンジン、意思決定のモデリング、シミュレーション

分析、ビジネスインテリジェンス、視覚化、単純予測/データを使った予測、計量経済学

データの取得、処理、ポリシーとオーケストレーション、メタデータ管理など

データベース、データレイク/データウェアハウス、キーバリューストアなど

CIOに対する推奨事項

まずは権限を持つ部門横断的チームを立ち上げ、社内のさまざまなビジネスおよび機能領域でのデータサイロを特定すべきである。続いて、組織のデータ資産全体でこれらのサイロを横断するビジネスプロセスとワークフローを再定義すべきである。次に全社規模でディスカバリー、カタログ化、アクセス、更新、共有、使用に関するポリシーを最適化する包括的なデータ戦略を策定すべきである。

地域別のインサイト

データの管理：
AI時代における成功の基盤

AIの世界におけるデータの確保と保護

AIモデルの健全性：データソースに
対する誤情報の混入問題

データのアーキテクチャと管理を
正確に理解する

モデルの逆転：データ主導の
インフラストラクチャ戦略

業種別および市場別
のインサイト

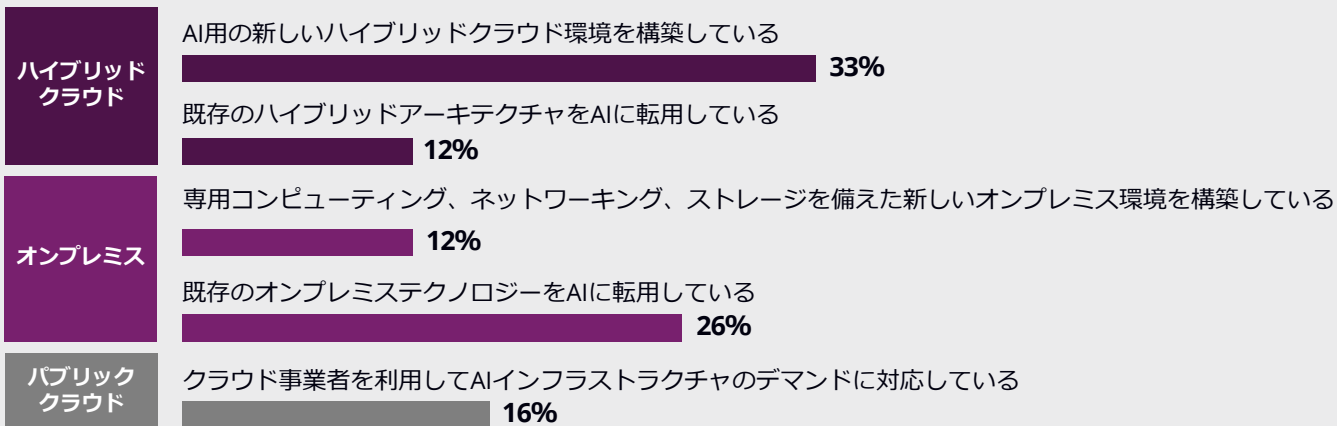
Data Management
Playbook 2024 調査手法

スポンサーメッセージ
Lenovoを選ぶ理由

重要課題 #4

モデルの逆転：データ主導のインフラストラクチャ戦略

AIインフラストラクチャ要件に対応するために企業が取る主なアプローチ



2024年のデータ管理調査では、エンタープライズハイブリッドクラウドの性質は、従来のワークロード要件ではなく、企業のデータアーキテクチャと戦略のニーズによって決定される必要がある。

このように企業がデジタルインフラストラクチャに関する意思決定の原動力としてデータを重視することは、**アジア太平洋地域の企業における最優先検討事項としてDataOpsの位置づけがワークロードの位置づけを超えていることに表れている。**



2022年時点の見解

40%の企業が、今後2年間でAI、ビッグデータ、機械学習のワークロード要件がデジタルインフラストラクチャに大きな影響を与えると予測している。

Source: IDC syndicated research

その後の2023年の見解

DataOpsに対する投資が、企業のデータインフラストラクチャにおけるアーキテクチャの最優先事項とみなされている。

Source: IDC syndicated research

CIOに対する推奨事項

将来のデータおよびインテリジェンス目標に対して現在のデジタルインフラストラクチャを評価し、ギャップを明らかにすべきである。その後、これらのギャップを埋めるハイブリッドクラウドアーキテクチャおよびテクノロジーソリューションを選択、かつ実装し、インフラストラクチャ運用モデルを変革すべきである。

業種別のインサイト

地域別のインサイト

インサイト

業種別および市場別

BFSI

製造業

小売業

通信業

ヘルスケア

AIインフラの概要

優先事項の用語集

Data Management
Playbook 2024 調査手法

BFSI (Banking, Financial Services, and Insurance) の概要 (1/2)

背景

BFSIセクターにおける2024年のデータ管理に関する優先事項は、データセキュリティの強化、AIプロジェクト用のデータの準備、データ活用のセルフサービス化である。これらの優先事項は、規制やコンプライアンス基準を遵守しながら、イノベーションと競争優位のためにデータを活用することに重点を置いていることを強調している。データ活用のセルフサービス化への注力は、チームが独立して洞察を生成できるようにすることを示しており、データ駆動型の意思決定の民主化の広範な傾向を反映している。

2023年のデータ駆動型イノベーションに関する主な課題

- 1 AI/MLを活用した高性能ワークロードの増加
- 2 アプリケーションパフォーマンスとトランザクションスループット
- 3 ハイブリッド/マルチクラウド環境におけるデータモビリティ

2024年のデータ管理の優先事項

- 1 データセキュリティ
- 2 AIプロジェクト用のデータの準備
- 3 データ活用のセルフサービス化

重要課題 #1

AIの世界におけるデータの確保と保護

BFSI企業は2024年、データのセキュリティ、バックアップ、復元、および分析用データストアの構築を優先している。これらの領域への注力は、データの整合性と可用性への当該セクターのコミットメントを反映している。分析用データストアへの注力は、高度な分析およびAI駆動のインサイトへの戦略的投資を示すものであり、競争優位性のためのデータ活用への積極的なアプローチを示している。

2024年に企業が最優先しているイニシアティブ

- 1 データセキュリティ
- 2 データバックアップと復元
- 3 分析用データストア (データレイク/データウェアハウスなど)



重要課題 #2

AIモデルの健全性：データソースに対する誤情報の混入問題

BFSIセクターにおいてAI/GenAIを使用する際のデータ品質に関する懸念は、AI駆動の意思決定に伴うリスクを浮き彫りにしている。誤った情報を用いたAIトレーニング、データ品質保証の欠如、データの改竄などの問題は、堅牢なデータガバナンスおよび品質管理の必要性を明確に示している。これらの懸念は、同セクターの規制環境および、財務上の意思決定におけるデータ精度の重要性を反映している。さらに、ビジネスニーズに沿った明確なAIユースケースの欠如は、AIイニシアティブを戦略的目標に合わせて、AI投資によって目に見えるビジネス価値を生み出すことの必要性を示している。

AI/GenAI利用時のデータ品質に対する主な懸念事項

- 1 未知または未検知の偽情報や誤った情報を用いたAIトレーニング
- 2 データ品質保証の欠如
- 3 データの改竄

社内でのAI/GenAIのさらなる利用を制限する要因

- 1 精度または潜在的悪影響に関する懸念
- 2 ビジネスニーズに沿った明確なユースケースの欠如
- 3 社内におけるGenAIスキルや専門知識の不足

BFSI (Banking, Financial Services, and Insurance) の概要 (2/2)

地域別のインサイト

インサイト

業種別および市場別

BFSI

製造業

小売業

通信業

ヘルスケア

AIインフラの概要

優先事項の用語集

Data Management Playbook 2024 調査手法

重要課題 #3 データアーキテクチャと管理を正確に理解する

32% の組織が、データ管理プラットフォームの複雑さが自社の主要な課題であると強調した。

データ管理の複雑さがBFSI企業の主な課題となっており、多様なデータソースを効果的に管理、統合するのに苦心していることを示している。

BFSI部門はデータ集約的なプロセスや規制要件に依存しているため、この問題は地域的な傾向と一致している。データアーキテクチャと管理の改善への注力は、進化するビジネスニーズに対応するためのデータインフラストラクチャとガバナンスの実践をモダン化するための戦略的必須事項を強調している。

重要課題 #4 モデルの逆転：データ主導のインフラストラクチャ戦略

BFSIセクターのAIインフラストラクチャ要件に対応するためのインフラストラクチャ戦略には、新しいオンプレミス環境の構築、クラウドベンダーの活用、ハイブリッドクラウド環境の作成が組み合わされている。これは、規制が厳しくコンプライアンスが重視される業界の特性によるところが大きく、この業界の企業は、厳密に管理されたプライベートクラウドやハイブリッドクラウド環境を中心に、データのロケーション、管理、ガバナンス、セキュリティ戦略を定義するよう指導されている。一方、適切なユースケースでは機敏性、スケーラビリティ、および費用対効果のためにパブリッククラウドを活用している。

2022年時点の見解

40%の企業が、今後2年間でAI、ビッグデータ、機械学習のワークロード要件がデジタルインフラストラクチャに大きな影響を与えると予測している。

その後の2023年の見解

DataOpsに対する投資が、企業のデータインフラストラクチャにおけるアーキテクチャの最優先事項とみなされている。

Source: IDC syndicated research

CIOおよびITBDMの検討事項

- 組織のデータをクラウドのデータレイクやデータウェアハウスのような環境に移行、統合するための包括的な計画を策定すべきである。このアプローチによって、BFSI組織はクラウドプラットフォームのスケーラビリティと機敏性を活用しながら、データのセキュリティと規制要件へのコンプライアンスを確保できる。
- データ管理を合理化し、継続的なデータフローと処理効率を確保するために、DataOpsチームを設立すべきである。強力なDataOps文化は、BFSI組織が運用効率を向上させるだけでなく、データ駆動のインサイトを得ようとするセルフサービスも加速させる。
- データ品質およびAIモデルの健全性を確保するための堅牢なデータガバナンスフレームワークを確立し、偽情報に基づくAIトレーニングを防ぎ、正確なデータタグ付けを確保するプロセスを含めるべきである。このステップは、AI駆動の意思決定に関連するリスクを軽減し、AIモデルの信頼性を確保するためにBFSI組織にとって重要である。



地域別のインサイト

インサイト

業種別および市場別

- BFSI
- 製造業
- 小売業
- 通信業
- ヘルスケア
- AIインフラの概要
- 優先事項の用語集

Data Management
Playbook 2024 調査手法

製造業の概要 (1/2)

背景

製造業ではインダストリー4.0への移行が進んでおり、これによってデータ駆動の分散型意思決定やインテリジェント自動化を活用したスマート製造が注目されている。2024年のデータ管理における最優先事項は、データセキュリティ、AIプロジェクト用のデータ準備、データの価値の明確化などである。これらの優先事項はアジア太平洋地域全体のトレンドと一致しているが、この業界では特にデータの価値を実証することに重点を置いている。業界が長年に渡り収集してきた運用データやテレメトリーを考慮すると、このデータの宝庫からビジネス価値を引き出すことに意欲的である。

2023年のデータ駆動型イノベーションに関する主な課題

- 1 データ保護とサイバーレジリエンシーによる事業継続性と復旧の向上
- 2 アプリケーションパフォーマンスとトランザクションスループット
- 3 ハイブリッド/マルチクラウド環境におけるデータモビリティ

2024年のデータ管理の優先事項

- 1 データセキュリティ
- 2 AIプロジェクト用のデータの準備
- 3 データ活用のセルフサービス化

重要課題 #1

AIの世界におけるデータの確保と保護

製造業の企業はデータを豊富に持っている場合が多いが、そのまま容易に使用できる形式であるとは限らない。また、データが専用システムにロックされており、不慮の損失や悪意のある行為に対して脆弱である場合も多い。このため、業界では分析用データストア、データのバックアップ、復元によってビジネスデータの健全性と可用性を確保し、データ損失やランサムウェア攻撃などのリスクを低減することを優先している。

2024年に企業が最優先しているイニシアティブ

- 1 分析用データストア (データレイク/データウェアハウスなど)
- 2 データのバックアップと復元
- 3 クラウドからのデータ回帰



重要課題 #2

AIモデルの健全性：データソースに対する誤情報の混入問題

製造業の企業の多くがオペレーショナルテクノロジー (OT) のデータを運用しているが、セキュリティを優先して作られたシステムを使用していないため、このデータを使用する際のデータのセキュリティと品質が重要な懸念事項となっている。データ品質に関する主な懸念事項として、偽情報を用いたAIトレーニング、データの改竄、データ品質保証の欠如が挙げられる。これらの懸念は、製造業におけるAI駆動の洞察の精度と信頼性を維持するために、堅牢なデータプレバレーションプロセスやガバナンスフレームワークが重要であることを示している。

AI/GenAIの使用時のデータ品質に対する主な懸念事項

- 1 未知または未検知の偽情報や誤った情報を用いたAIトレーニング
- 2 データの改竄
- 3 データ品質保証の欠如

企業内でのAI/GenAIのさらなる利用を制限する

- 1 精度または潜在的悪影響に関する懸念
- 2 GenAIによって強化されたアプリケーションソフトウェアの導入に伴う膨大な費用
- 3 GenAIによってデータおよび知的財産のコントロールが損なわれることへの懸念

製造業の概要 (2/2)

重要課題 #3 データのアーキテクチャと管理を正確に理解する

30% の組織が、データ管理
プラットフォームの複雑さが自社
の主要な課題であると強調した。

製造業では30%の企業がデータ管理の複雑さを主な課題と考えており、アジア太平洋地域平均の29%よりもわずかに高い割合となっている。これには、製造業の企業がデータ管理の実践を簡素化し、統合されたデータアーキテクチャを導入して、意思決定および業務効率を向上させる必要があることを示している。

重要課題 #4 モデルの逆転：データ主導のインフラストラクチャ戦略

この分野では、堅牢なデータストアの構築と、バックアップとリカバリーによるデータの可用性の確保が優先される（いずれもパブリッククラウドが十分に対応できる）。AIインフラストラクチャ要件に対してパブリッククラウドが第一の選択であるのは驚くべきことではないが、一方で、事業の性質上、エッジ環境でのデータのストレージや処理が重要であり、AIインフラストラクチャ構築に対するハイブリッドなアプローチが必要となっている。

2022年時点の見解

40%の企業が、今後2年間でAI、ビッグデータ、機械学習のワークロード要件がデジタルインフラストラクチャに大きな影響を与えると予測している。

Source: IDC syndicated research

その後の2023年の見解

DataOpsに対する投資が、企業のデータインフラストラクチャにおけるアーキテクチャの最優先事項とみなされている。

CIOおよびITBDMの検討事項

- 組織のデータをデータレイクやデータウェアハウスのようなクラウド環境に移行、統合する包括的計画を策定して、データのアクセシビリティを向上させ、スマート製造および産業オートメーションに不可欠な高度な分析能力をサポートすべきである。
- DataOpsの専門チームを立ち上げてデータ管理プロセスを最適化し、シームレスなデータフローおよび処理の効率を確保して、製造業務のエッジにおけるデータ駆動によるリアルタイムの意思決定を可能とすべきである。
- エッジコンピューティングを統合するハイブリッドクラウド戦略を策定して、製造業務におけるリアルタイムの処理と意思決定をサポートし、低遅延、高信頼性、オンプレミスシステムとクラウド環境のシームレスな接続性を確保すべきである。

小売業の概要 (1/2)

背景

小売業においては、パーソナライズされた顧客エクスペリエンス、オムニチャネル小売、在庫管理、需要予測など、データが現代の最大のテーマの中心にある。2024年の優先事項としてデータセキュリティが最重要視されており、これは業界が顧客情報の保護に重点を置いていることを反映している。多様なソースから収集されたデータによって、AIプロジェクトに向けたデータの準備も非常に重要であり、小売業者はますますAIに依存してパーソナライズされたマーケティング、在庫管理、顧客サービスを行っている。データ活用のセルフサービス化は、従業員が自力でデータにアクセスし分析できるようにする環境への転換を示すもので、小売業務における迅速な意思決定とイノベーションを促進する傾向が見られる。

2023年のデータ駆動型イノベーションに関する主な課題

- 1 データ保護とサイバーレジリエンスによる事業継続性と復旧の向上
- 2 アプリケーションパフォーマンスとトランザクションスループット
- 3 ハイブリッド/マルチクラウド環境におけるデータモビリティ

2024年のデータ管理における最優先事項

- 1 データセキュリティ
- 2 AIプロジェクト用のデータの準備
- 3 データ活用のセルフサービス化

重要課題 #1

AIの世界におけるデータの確保と保護

ランサムウェアの脅威に直面する中、小売業者は重要なビジネスデータへの継続的なアクセスを確保するため、データのバックアップと復元を優先している。データセキュリティのイニシアティブは、顧客情報を保護し、GDPRやCCPAなどの規制要件に準拠することを目的としている。データガバナンスおよびプライバシーの取り組みは、ライフサイクルを通じたデータの管理と保護に焦点を合わせて、データ保護規制へのコンプライアンスを確保し、顧客の信頼を維持することに注力している。

2024年に企業が最優先しているイニシアティブ

- 1 データのバックアップと復元
- 2 データセキュリティ
- 3 データガバナンスとプライバシー



重要課題 #2

AIモデルの健全性：データソースに対する誤情報の混入問題

小売業は多数のチャネルやソースから収集した多様なファーストパーティおよびサードパーティデータを活用している。正確なインサイトを生み出し、インパクトの大きな体験（エクスペリエンス）を提供するには、データの精度と品質の確保が不可欠である。さらに、小売業においては「体験」（ビジネス価値に数値化することが難しい場合が多い）が重要な成果であるため、小売業者はデータおよびAIイニシアティブに関わる費用を強く意識している。

AI/GenAIの使用時のデータ品質に対する主な懸念事項

- 1 データの改竄
- 2 未知または未検知の偽情報や誤った情報を用いたAIトレーニング
- 3 不正確な、または欠落しているコードドキュメント

企業内でのAI/GenAIのさらなる利用を制限する

- 1 モデルトレーニングやGenAIアプリケーションの実行に伴う膨大なインフラストラクチャ費用
- 2 GenAIによって強化されたアプリケーションソフトウェアの導入に伴う膨大な費用
- 3 GenAIによってデータおよび知的財産のコントロールが損なわれることへの懸念

小売業の概要 (2/2)

重要課題 #3 データのアーキテクチャと管理を正確に理解する

31% の組織が、データ管理
プラットフォームの複雑さが自社
の主要な課題であると強調した。

小売業におけるデータ管理の複雑さは、個人の好み、顧客取引、在庫データ、市場の傾向などさまざまなデータソースを統合、分析する上での課題をもたらした。小売業者は堅牢なデータ管理戦略を採用し、データの競争優位性を実現するためにこれらの課題を克服する必要がある。

重要課題 #4 モデルの逆転：データ主導のインフラストラクチャ戦略

小売業におけるデータ主導のインフラストラクチャ戦略への移行は、この業界がデータをイノベーションと効率化の重要な推進要因とみなしていることを示している。クラウド移行によって、小売業者はインフラストラクチャを必要に応じて拡張し、AIおよびデータ分析のイニシアティブを支援している。さらに、分散環境（小売店、倉庫、物流ハブなど）におけるリアルタイムデータ分析と迅速な意思決定の必要性がハイブリッドクラウドの構築を促進するとみられる。DataOpsに対する投資は、データのワークフローと処理を最適化することによって、小売業務におけるデータの品質と効率を向上させることを示している。

2022年時点の見解

40%の企業が、今後2年間でAI、ビッグデータ、機械学習のワークロード要件がデジタルインフラストラクチャに大きな影響を与えると予測している。

Source: IDC syndicated research

その後の2023年の見解

DataOpsに対する投資が、企業のデータインフラストラクチャにおけるアーキテクチャの最優先事項とみなされている。

CIOおよびITBDMの検討事項

- 小売業のビジネス目標に沿った包括的なデータ戦略を策定して、データ品質、ガバナンス、すべてのチャネルでの統合を促進し、パーソナライズされた顧客エクスペリエンスを向上させ、オムニチャネル小売をサポートすべきである。
- リアルタイムデータ処理とエッジコンピューティング機能を統合して、売り場での低遅延と迅速なインサイトを確保することで、パーソナライズされた顧客エクスペリエンスを提供する能力を高め、業務効率を向上させるべきである。
- 店内システム、オンラインプラットフォーム、モバイルアプリケーションなど、さまざまなデータソースのシームレスな統合と相互運用性を確保し、小売チェーン全体での顧客対応の統一的視点と合理化されたデータ管理プロセスを生み出すべきである。

通信業の概要 (1/2)

地域別のインサイト

インサイト

業種別および市場別

- BFSI
- 製造業
- 小売業
- 通信業
- ヘルスケア
- AIインフラの概要
- 優先事項の用語集

Data Management Playbook 2024 調査手法

背景

通信業は顧客（個人および企業）の機密情報にアクセスでき、重要デジタルインフラストラクチャの管理者という役割から、厳格な規制要件に従って管理されている。顧客の信頼を維持し、不正を防止し、ネットワークインフラストラクチャをサイバー脅威から保護するためには、効果的なデータセキュリティおよび管理メカニズムが必要である。さらに、効果的なデータガバナンスによって、ネットワークのパフォーマンスを最適化し、信頼性の高いサービスを提供するために不可欠なデータの整合性と精度を保証する。

2023年のデータ駆動型イノベーションに関する主な課題

- 1 ハイブリッド/マルチクラウド環境におけるデータモビリティ
- 2 データ保護とサイバーレジリエンスによる事業継続性と復旧の向上
- 3 データの急増に対応するエネルギーコスト

2024年のデータ管理における最優先事項

- 1 データセキュリティ
- 2 データの管理とガバナンス
- 3 AIプロジェクト用のデータの準備

重要課題 #1

AIの世界におけるデータの確保と保護

通信業では、ネットワーク運用、顧客サービスシステム、課金プラットフォーム全体に渡り異なるデータソースを統合するために、データサイロの削減、データカタログ化、メタデータの管理が不可欠である。この統合によって、ネットワーク最適化、顧客アナリティクス、規制報告のためのデータアクセシビリティが向上し、効率的な意思決定と、通信業界の基準および規制へのコンプライアンスが確保される。

2024年に企業が最優先しているイニシアティブ

- 1 データガバナンスおよびプライバシー
- 2 データサイロの削減
- 3 データのカタログ化とメタデータ



重要課題 #2

AIモデルの健全性：データソースに対する誤情報の混入問題

不正確なデータは顧客の行動分析結果をゆがめ、誤ったパーソナライゼーション、効果のないマーケティングキャンペーン、不十分な顧客サービス戦略につながり、顧客の満足度と顧客ロイヤルティを害する結果をもたらす。さらに重要なのは、不正確または不完全なデータがAI駆動の不正検出およびセキュリティ対策を妨げ、悪意のある行為が見逃されやすくなり、顧客ベース全体でデータ漏洩やサイバー攻撃のリスクを増大させることである。

AI/GenAIの使用時のデータ品質に対する主な懸念事項

- 1 データのバイアス
- 2 未知または未検知の偽情報や誤った情報を用いたAIトレーニング
- 3 データの改竄

企業内でのAI/GenAIのさらなる利用を制限する

- 1 ビジネスニーズに沿った明確なユースケースの欠如
- 2 GenAIによってデータおよび知的財産のコントロールが損なわれることへの懸念
- 3 モデルトレーニングやGenAIアプリケーションの実行に伴う膨大なインフラストラクチャ費用

通信業の概要 (2/2)

重要課題 #3 データのアーキテクチャと管理を正確に理解する

26% の組織が、データ管理
プラットフォームの複雑さが自社
の主要な課題であると強調した。

通信事業者の26%が主な課題として「データ管理の複雑さ」を挙げており、アジア太平洋平均の29%よりもわずかに低い割合となっている。これらの課題には、ネットワーク運用から顧客データまでさまざまなデータソースの統合、プラットフォーム全体でのデータの精度と一貫性の確保に加えて、高度なアナリティクスのサポートが含まれる。

重要課題 #4 モデルの逆転：データ主導のインフラストラクチャ戦略

通信事業者は、AIインフラストラクチャのニーズに対して、パブリッククラウドの活用（34%）を好む傾向が強い。一方で、AIの新しいハイブリッドクラウド環境の構築（23%）および新しいオンプレミスプライベート環境の構築（20%）にも大きな関心を示している。AI/GenAIのインフラストラクチャに対するこの多様な選好は、適切なユースケースにパブリッククラウドの恩恵を活用しながら、特に顧客の機密情報にはハイブリッドおよびプライベート環境を利用して、データセキュリティや規制のコンプライアンスの厳しい管理を維持したいという要望を反映している。

2022年時点の見解

40%の企業が、今後2年間でAI、ビッグデータ、機械学習のワークロード要件がデジタルインフラストラクチャに大きな影響を与えると予測している。

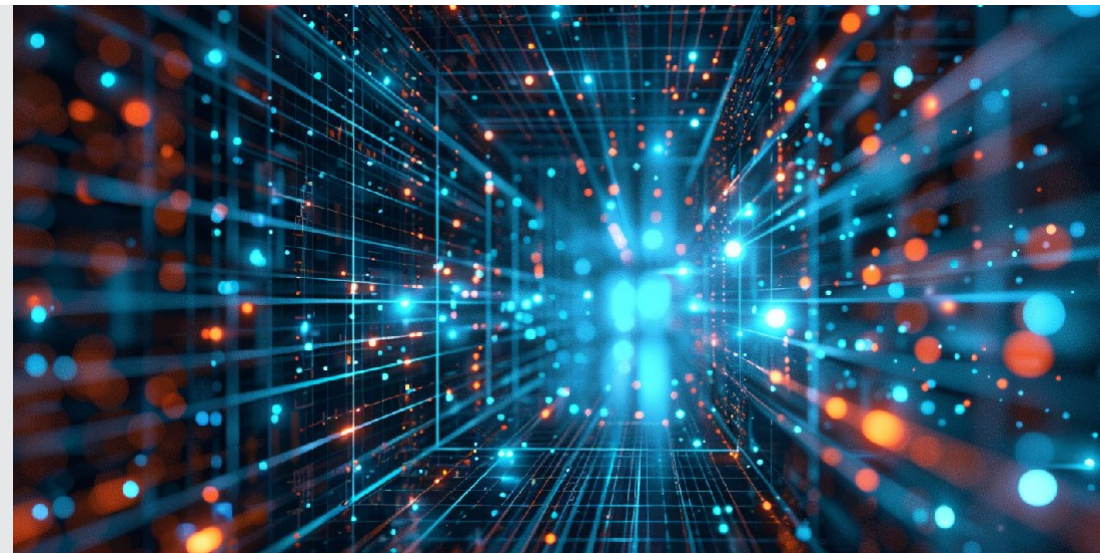
その後の2023年の見解

DataOpsに対する投資が、企業のデータインフラストラクチャにおけるアーキテクチャの最優先事項とみなされている。

Source: IDC syndicated research

CIOおよびITBDMの検討事項

- 堅牢なデータセキュリティ対策およびガバナンスフレームワークを策定して、顧客の機密情報を保護し、厳格な規制要件へのコンプライアンスを確保すべきである。
- データの機密性および規制上の制約に基づき、パブリッククラウド環境、ハイブリッドクラウド環境、プライベート環境全体でのAIワークロードの展開を評価し、バランスを取るべきである。このアプローチは、重要なデータ資産を保護しながら、柔軟な拡張性とパフォーマンスの最適化をサポートするものである。
- データ品質のイニシアティブを優先して、顧客行動分析や不正検知などの重要なユースケースにおいてAIを活用する際の不正確さのリスクを軽減すべきである。



ヘルスケアの概要 (1/2)

地域別のインサイト

インサイト

業種別および市場別

- BFSI
- 製造業
- 小売業
- 通信業
- ヘルスケア
- AIインフラの概要
- 優先事項の用語集

Data Management Playbook 2024 調査手法

スポンサーメッセージ
Lenovoを選ぶ理由

背景

ヘルスケア業界における2024年のデータ管理に関する優先事項は、この業界が（臨床決定サポート、遠隔医療などによる）患者のアウトカム向上、業務効率（病院の運営、リソース管理、ワークフローの最適化など）、規制コンプライアンスへのデータの活用を重視していることを示している。データセキュリティが引き続き最優先事項となっているが、ヘルスケア業界はセルフサービスのデータアクセスによって、臨床医やスタッフが関連性のある情報をタイムリーに得られるようにすることの必要性を認識しつつある。また、継続的なAIプロジェクト用のデータの準備は、AIの力を活用して、診断、治療、医療提供を推進させることへの同業界のコミットメントを反映している。

2023年のデータ駆動型イノベーションに関する主な課題

- 1 データ保護とサイバーレジリエンスによる事業継続性と復旧の向上
- 2 ハイブリッド/マルチクラウド環境におけるデータモビリティ
- 3 アプリケーションパフォーマンスとトランザクションスループット

2024年のデータ管理における最優先事項

- 1 データセキュリティ
- 2 データ活用のセルフサービス化
- 3 AIプロジェクト用のデータの準備

重要課題 #1

AIの世界におけるデータの確保と保護

ヘルスケア企業は、クラウドへのデータ移行によって、データ管理の拡張性、アクセスビリティ、および費用対効果を向上させることを優先している。この業界の厳格な規制要件、およびサイバー脅威やランサムウェア攻撃から機密患者情報を保護する必要性に沿って、データのセキュリティおよびバックアップ/復元への取り組みに重点を置いている。こうしたイニシアティブは、質の高い患者ケアを提供するために不可欠であるデータの整合性と可用性を維持するために必要である。

2024年に企業が最優先しているイニシアティブ

- 1 クラウドへのデータの移行
- 2 データセキュリティ
- 3 データのバックアップと復元



重要課題 #2

AIモデルの健全性：データソースに対する誤情報の混入問題

患者の安全性および治療の成果に対する潜在的な影響を考えると、ヘルスケア業界においてはデータ品質に関する懸念が最重要事項である。データ品質保証の欠如や、偽情報や誤った情報を用いたAIトレーニングのリスクは、ヘルスケア企業が対処すべき重要な課題である。さらに、データの改竄に関する懸念は、ヘルスケアにおけるAI駆動の意思決定に向けてデータの整合性と信頼性を確保する重要性を強調している。AIテクノロジーに対する信頼を構築し、ヘルスケアにおけるその潜在力を引き出すためには、これらの懸念に対処することが不可欠である。

AI/GenAIの使用時のデータ品質に対する主な懸念事項

- 1 データ品質保証の欠如
- 2 未知または未検知の偽情報や誤った情報を用いたAIトレーニング
- 3 データの改竄

企業内でのAI/GenAIのさらなる利用を制限する

- 1 GenAIの使用がブランドリスクや規制上のリスクをもたらすことへの懸念
- 2 精度または潜在的な悪影響に関する懸念
- 3 ビジネスニーズに沿った明確なユースケースの欠如

ヘルスケアの概要 (2/2)

重要課題 #3 データのアーキテクチャと管理を正確に理解する

42% の組織が、データ管理
プラットフォームの複雑さが自社
の主要な課題であると強調した。

ヘルスケア機関の42%が主な課題としてデータ管理の複雑さを挙げており、アジア太平洋地域平均の29%よりも大幅に高い割合となっている。これは、この業界が従来厳しい規制環境においてデータの基準、管理、相互運用性を課題としてきたことを示している。

重要課題 #4 モデルの逆転：データ主導のインフラストラクチャ戦略

ヘルスケア企業はデータ主導のインフラストラクチャ戦略を導入しつつある。これは、患者ケアおよび業務効率を向上させるのに不可欠である。地域の傾向と同様ではあるが、ヘルスケア業界ではAIインフラストラクチャ需要に対応する上でのクラウド事業者への依存度が高まっており、ヘルスケアデータ管理に対するクラウドベースソリューションへの戦略的移行を示している。膨大な患者データを統合、分析することによって、ヘルスケア事業者はパーソナライズされた治療計画を提供し、診断精度を向上させ、管理プロセスを合理化できる。

2022年時点の見解

40%の企業が、今後2年間でAI、ビッグデータ、機械学習のワークロード要件がデジタルインフラストラクチャに大きな影響を与えると予測している。

Source: IDC syndicated research

その後の2023年の見解

DataOpsに対する投資が、企業のデータインフラストラクチャにおけるアーキテクチャの最優先事項とみなされている。

CIOおよびITBDMの検討事項

- 患者データの保護とHIPAAなどのヘルスケア規制の遵守を優先し、ヘルスケアデータをコンプライアンスに準拠したクラウド環境に安全に移行、統合するための詳細な計画を策定すべきである。
- DataOps専門チームを立ち上げてデータ管理の効率を向上させ、ヘルスケア業務全体のシームレスなデータフローを確保して、タイムリーで正確な意思決定と患者ケアを実現すべきである。
- 厳格なデータガバナンスフレームワークを展開し、データの品質と整合性を維持し、不正確な情報を使用したAIトレーニングに伴うリスクを軽減し、データ処理における倫理規範を維持すべきである。
- 患者ケアの成果を向上させるAIイニシアティブを定義して優先し、費用対効果および投資利益率を測定する明確な基準を設定することによって、ヘルスケア提供およびリソース割り当てを最適化すべきである。

はじめに
CIOが取り組むべき重要課題

地域別のインサイト

インサイト
業種別および市場別

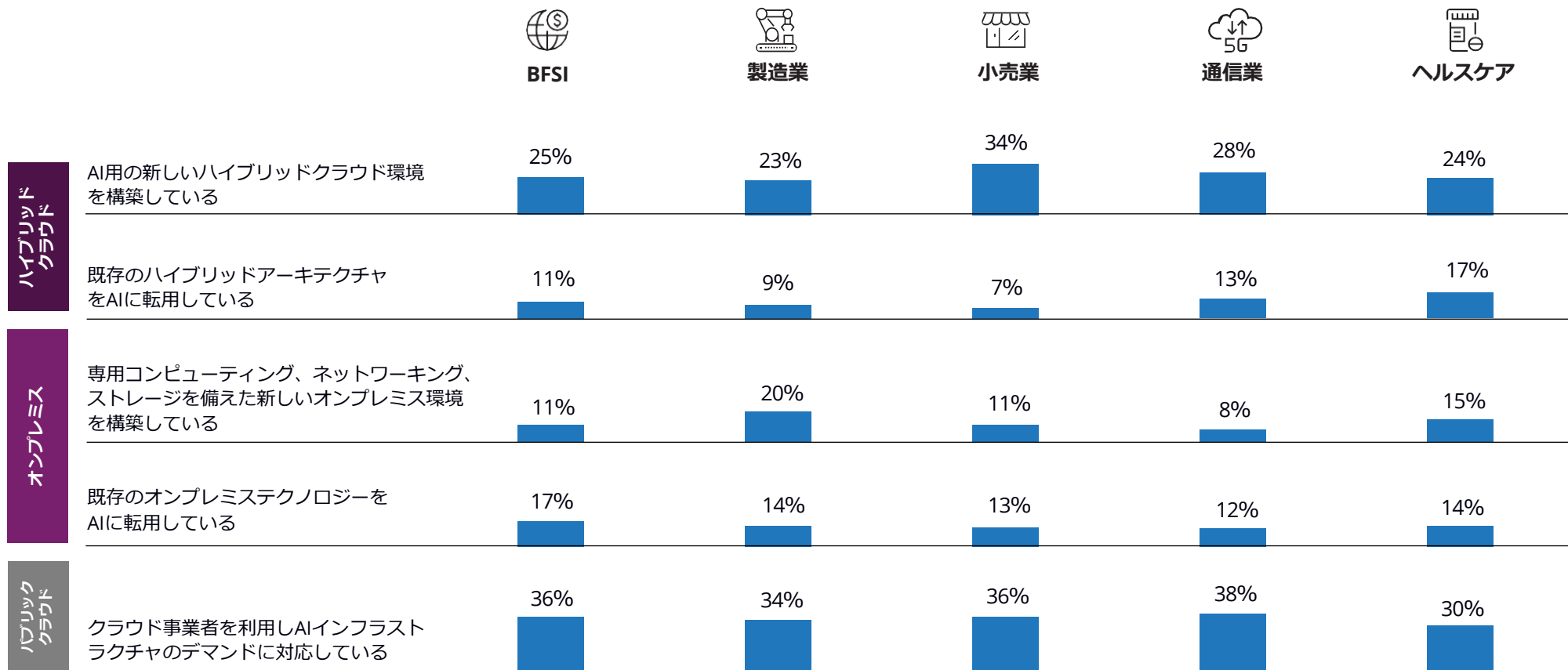
- BFSI
- 製造業
- 小売業
- 通信業
- ヘルスケア
- AIインフラの概要
- 優先事項の用語集

Data Management
Playbook 2024 調査手法

スポンサーメッセージ
Lenovoを選ぶ理由

AIインフラストラクチャ要件への対応 – 業種別

以下にアジア太平洋地域の企業がAIインフラストラクチャ要件に対応する際に優先的に使用するアプローチを示す。



市場のインサイト

地域別のインサイト

インサイト
業種別および市場別

- 日本
- 韓国
- インド
- ASEAN+
- ANZ
- AIインフラの概要
- 優先事項の用語集

Data Management
Playbook 2024 調査手法

日本の概要 (1/2)

背景

日本の2024年のデータ管理に関する優先事項は、組織内データからのビジネス価値の創出、堅牢なデータ管理とガバナンスの確立、およびデータセキュリティの向上である。これらはアジア太平洋地域の広範な傾向と一致しているが、日本ではデータから価値を生み出すことを特に重視しており、データとAIイニシアティブにおいて強い業務重視を示している。

2023年のデータ駆動型イノベーションに関する主な課題

- 1 ハイブリッド/マルチクラウド環境におけるデータモビリティ
- 2 アプリケーションパフォーマンスとトランザクションスループット
- 3 データ保護とサイバーレジリエンシーによる事業継続性と復旧の向上

2024年のデータ管理における最優先事項

- 1 データの価値の明確化
- 2 データの管理とガバナンス
- 3 データセキュリティ

重要課題 #1

AIの世界におけるデータの確保と保護

日本の企業はパブリッククラウドをAIワークロードの主な環境として優先しており、クラウドへのデータ移行が企業による2024年の最優先事項として浮上している。また、データからビジネス価値を生み出すことを重視することによって、データの構造化とデータレイクやデータウェアハウスおよび同様の環境へのデータの構造化と整理に関するイニシアティブは、優先順位リストの上位に位置することになる。

2024年に企業が最優先しているイニシアティブ

- 1 クラウドへのデータの移行
- 2 分析用データストア (データレイク/データウェアハウスなど)
- 3 データセキュリティ



重要課題 #2

AIモデルの健全性：データソースに対する誤情報の混入問題

日本の企業にとっては、AIモデルの健全性確保が不可欠である。データ品質に関する主な懸念（偽情報を用いたAIトレーニング、不正確または欠落しているコードドキュメント、タグの欠落など）は地域の懸念と一致する。さらに、日本の企業は自社のデータからビジネス価値を生み出すことを重視しているため、AIおよびGenAIの導入と使用におけるユースケースの定義、費用管理、およびROI追跡の重要性が高い。

AI/GenAIの使用時のデータ品質に対する主な懸念事項

- 1 未知または未検知の偽情報や誤った情報を用いたAIトレーニング
- 2 不正確な、または欠落しているコードドキュメント
- 3 タグのないデータ/出所不明なデータ

企業内でのAI/GenAIのさらなる利用を制限する

- 1 精度または潜在的悪影響に関する懸念
- 2 ビジネスニーズに沿った明確なユースケースの欠如
- 3 効果的な費用管理およびユースケースのROI手法の欠如

日本の概要 (2/2)

重要課題 #3 データのアーキテクチャと管理を正確に理解する

28% の組織が、「データ管理プラットフォームの複雑さ」が自社の主要な課題であると強調した。

28%の日本企業が主な課題として「データ管理の複雑さ」を挙げており、アジア太平洋地域平均の29%とほぼ一致している。これは、データの複雑さを管理する上での地域の課題を示しており、日本での統合されたデータ戦略によって意思決定を向上させてサイロを削減する必要性を表している。

重要課題 #4 モデルの逆転：データ主導のインフラストラクチャ戦略

日本の企業は、AIニーズに対するデータ戦略において、データをクラウドに移行し、クラウドベースのデータストアを戦略的なツールとして活用することを明示的に好んでいる。当たり前のことであるが、日本は他の地域のアプローチと比較して、クラウドベンダーへの依存度が高く（47%）、AIの要求を満たすためにクラウドベースのインフラストラクチャを特に重視していることを示している。

2022年時点の見解

40%の企業が、今後2年間でAI、ビッグデータ、機械学習のワークロード要件がデジタルインフラストラクチャに大きな影響を与えると予測している。

Source: IDC syndicated research

その後の2023年の見解

DataOpsに対する投資が、企業のデータインフラストラクチャにおけるアーキテクチャの最優先事項とみなされている。

CIOおよびITBDMの検討事項

- 社内データをデータレイクやウェアハウスなどのクラウド環境に移行、統合するための包括的な計画を策定すべきである。
- DataOpsの専門チームを立ち上げてデータ管理を合理化し、継続的なデータフローと処理の効率を確保すべきである。
- 堅牢なデータガバナンスフレームワークを構築し、データの品質とAIモデルの健全性を確保すべきである。これには、偽情報を用いたAIトレーニングを防ぐためのプロセスの設定、正確なコードドキュメントの確保、包括的なデータのタグ付けが含まれる。
- ビジネス目標に沿ったAIイニシアティブのための明確なユースケースを定義し、費用管理およびROI追跡の基準を設定すべきである。

地域別のインサイト

インサイト
業種別および市場別

- 日本
- 韓国
- インド
- ASEAN+
- ANZ
- AIインフラの概要
- 優先事項の用語集

Data Management
Playbook 2024 調査手法

韓国の概要 (1/2)

背景

韓国企業にとって2024年のデータ関連の最優先事項は、データ管理とガバナンス、データ活用のセルフサービス化、AIプロジェクト向けデータの準備などである。韓国市場は、高齢化する労働力と重要なスキル（特に高度なデータ関連スキル）の不足という独自の状況に直面している。このギャップを埋めるために、既存の労働力をシチズン開発やセルフサービスイニシアティブで支援することに力を入れている。データ活用のセルフサービス化の優先順位は、このアプローチに沿ったものとなっている。

2023年のデータ駆動型イノベーションに関する主な課題

- 1 アプリケーションパフォーマンスとトランザクションスループット
- 2 データの急増に対応するエネルギーコスト
- 3 データ保護とサイバーレジリエンシーによる事業継続性と復旧の向上

2024年のデータ管理における最優先事項

- 1 データの管理とガバナンス
- 2 データ活用のセルフサービス化
- 3 AIプロジェクト用のデータの準備

重要課題 #1

AIの世界におけるデータの確保と保護

韓国の企業は、データレイクやデータウェアハウスなどの分析用データストアの構築によって、膨大な量の生産/運用データを効率的に分析することを優先している。これによって、イノベーション、プロセス最適化、競争力の維持のためのインサイトが促進される。増大するサイバー攻撃の脅威や厳格な規制要件によって、データセキュリティがもう一つの重要なイニシアティブとなっており、機密性の高い知的財産や運用データを保護するための堅牢な対策が必要となっている。

2024年に企業が最優先しているイニシアティブ

- 1 分析用データストア（データレイク/データウェアハウスなど）
- 2 データセキュリティ
- 3 データのバックアップと復元



重要課題 #2

AIモデルの健全性：データソースに対する誤情報の混入問題

韓国市場は自動車、工業、ハイテク製造業が優位を占めている。AIを使用する場合のデータ品質の問題は、予知保全モデルの不備、製品品質の低下、予期せぬ設備故障、製造停止につながり、最終的にブランドの評判や市場競争力に影響を及ぼす可能性がある。韓国の企業はすでに産業オートメーションや技術向上に巨額を投資してきている。これに加えて、明確なユースケースの特定や、予測されるインフラストラクチャ費用への配慮を重視している。

AI/GenAIの使用時のデータ品質に対する主な懸念事項

- 1 未知または未検知の偽情報や誤った情報を用いたAIトレーニング
- 2 タグのないデータ/出所不明なデータ
- 3 データの改竄

社内でのAI/GenAIのさらなる利用を制限する

- 1 ビジネスニーズに沿った明確なユースケースの欠如
- 2 モデルトレーニングやGenAIアプリケーションの実行に伴う膨大なインフラストラクチャ費用
- 3 GenAI関連のデータおよび知的財産のコントロールが損なわれることへの懸念

韓国の概要 (2/2)

重要課題 #3 データのアーキテクチャと管理を正確に理解する

24% の組織が、データ管理プラットフォームの複雑さが自社の主要な課題であると強調した。

韓国の企業の24%が「データ管理の複雑さ」を主な課題に挙げており、アジア太平洋地域平均の29%よりも低い割合となっている。

これは、データの複雑さを管理する難しさを示すものであり、韓国における統合されたデータ戦略の必要性を浮き彫りにしている。

重要課題 #4 モデルの逆転：データ主導のインフラストラクチャ戦略

韓国の経済はハイテク製造業が主導しており、さまざまなデジタルトランスフォーメーション（DX）やインダストリー4.0/IIOT/スマートマニュファクチャリングのイニシアティブにおいて、オンプレミスやエッジ環境で利用可能な豊富な運用データを活用できるよう、オンプレミスインフラストラクチャに巨額の投資を行っている。当然ながら、企業はデータとAIのイニシアティブに対して、パブリッククラウドと共に既存のデジタルインフラストラクチャ投資を転用することを切望している。

2022年時点の見解

40%の企業が、今後2年間でAI、ビッグデータ、機械学習のワークロード要件がデジタルインフラストラクチャに大きな影響を与えると予測している。

その後の2023年の見解

DataOpsに対する投資が、企業のデータインフラストラクチャにおけるアーキテクチャの最優先事項とみなされている。

Source: IDC syndicated research

CIOおよびITBDMの検討事項

- 特に自動車、工業、ハイテク製造業などのセクターでは、堅牢なデータ管理およびガバナンスプラクティスを確立して、データ品質と規制要件へのコンプライアンスを確保すべきである。これによって複雑さに対処してデータ処理を合理化し、意思決定と業務効率の向上を図るべきである。
- セルフサービスのデータプラットフォームを導入して、既存のワークフォースに高度なデータツールを使用する権限を与え、ワークフォースの高齢化やスキル不足の影響を軽減すべきである。市民開発のイニシアティブを促進することで、従業員は自力でインサイトを引き出し、イノベーションを推進させることが可能になる。
- DXやインダストリー4.0のイニシアティブから既存のオンプレミスインフラ投資を活用してAIワークロードをサポートし、コストを効果的に管理すべきである。このアプローチによって、ハイブリッドなインフラストラクチャモデルが可能となり、パブリッククラウドの利点とオンプレミス機能を組み合わせてAIやデータアナリティクスのニーズに効率的に対応すべきである。



インドの概要 (1/2)

地域別のインサイト

インサイト 業種別および市場別

- 日本
- 韓国
- インド
- ASEAN+
- ANZ
- AIインフラの概要
- 優先事項の用語集

Data Management Playbook 2024 調査手法

背景

2023年のインドのデータ環境では、データ保護とサイバーレジリエンスの確保、AI/MLを活用したワークロード管理の複雑さという課題が特徴であった。2024年に向けてデータセキュリティは引き続き最重要事項であり、AIプロジェクトのためのデータプレパレーションやデータからのビジネス価値の抽出が求められている。これによって、データが成功するAIプロジェクトの推進において重要な役割を果たすことに対する認識が高まり、価値を重視する市場においてビジネスの影響を示すことに重点が置かれている。

2023年のデータ駆動型イノベーションに関する主な課題

- 1 データ保護とサイバーレジリエンス
- 2 AI/MLを活用した高性能ワークロードの増加
- 3 アプリケーションパフォーマンスとトランザクションスループット

2024年のデータ管理における最優先事項

- 1 データセキュリティ
- 2 AIプロジェクト用のデータの準備
- 3 データの価値の明確化

重要課題 #1

AIの世界におけるデータの確保と保護

2024年、インドの組織はデータバックアップ、分析データストア、およびデータセキュリティを優先している。これは、データが堅牢な保護対策を必要とする中核的資産であることの認識を強調している。分析データストアへの重点は、利用可能なデータがAIおよび分析の取り組みに簡単に使用できる形式ではないことが多い現状を示している。

2024年に企業が最優先しているイニシアティブ

- 1 データのバックアップと復元
- 2 分析用データストア
(データレイク/データウェアハウスなど)
- 3 データセキュリティ



重要課題 #2

AIモデルの健全性：データソース に対する誤情報の混入問題

インドのAIおよびGenAIに関する懸念には、データの改竄、データ品質保証の欠如、および非合理的または偽情報の生成が含まれる。これらの懸念は、厳格なデータ品質管理と倫理的なAIの実践の必要性を強調する。インドにおけるAI利用のさらなる制限要因であるインフラコストに対する懸念と明確なユースケースの欠如は、これらの取り組みから具体的な価値を明確にする必要性を強調している。

AI/GenAIの使用時のデータ品質に対する 主な懸念事項

- 1 データの改竄
- 2 データ品質保証の欠如
- 3 ハルシネーションまたは無意味な/誤った情報の生成

社内でのAI/GenAIのさらなる利用を 制限する

- 1 モデルトレーニングやGenAIアプリケーションの実行に伴う膨大なインフラストラクチャ費用
- 2 ビジネスニーズに沿った明確なユースケースの欠如
- 3 GenAI関連のデータおよび知的財産のコントロールが損なわれることへの懸念

インドの概要 (2/2)

重要課題 #3 データのアーキテクチャと管理を正確に理解する

30% の組織が、データ管理プラットフォームの複雑さが自社の主要な課題であると強調した。

データ管理の複雑さはインドにおける重要な課題であり、30%の企業がそれを問題とみなしている。これは、アジア太平洋地域平均の29%と比較して複雑さの度合いが高いことを示しており、インドの断片化されたデータのランドスケープと固有のデータ品質の問題に対処するためのデータ管理戦略やソリューションの必要性を示す。

重要課題 #4 モデルの逆転：データ主導のインフラストラクチャ戦略

インド市場は、AI要件に対するインフラストラクチャの選択において、アジア太平洋地域全体とは大きく異なる傾向を見せている。インドの大多数の企業は、DXとデータ分析のイニシアティブに投資したハイブリッドクラウドインフラストラクチャを再利用する意向である。パブリッククラウドの明らかな利点（可用性、スケール、市場への迅速な対応、最新のイノベーションへのアクセス）を考慮し、多くの企業がAIのニーズにそれを活用する意向を示した。最も驚くべきことに、回答者の約20%がAIのために新たなプライベート環境を構築したいと考えており、企業が貴重なデータ資産の管理と統制を強化したいと考えている。

2022年時点の見解

40%の企業が、今後2年間でAI、ビッグデータ、機械学習のワークロード要件がデジタルインフラストラクチャに大きな影響を与えると予測している。

Source: IDC syndicated research

その後の2023年の見解

DataOpsに対する投資が、企業のデータインフラストラクチャにおけるアーキテクチャの最優先事項とみなされている。

CIOおよびITBDMの検討事項

- インドはサイバー攻撃数の多い国の上位に入っている。堅牢なデータセキュリティ規約や包括的なデータバックアップ計画を策定してコア資産を保護し、サイバーレジリエンスを確保して、データの改竄や漏洩を防ぐべきである。
- 分析用データストアやデータ管理ソリューションの開発に投資し、データがAIやアナリティクスのイニシアティブに利用できるようにし、データ運用環境の複雑さや断片化に対処して、データ駆動のプロジェクトからビジネス価値を引き出すべきである。
- 厳格なデータ品質保証プロセスや倫理的なAIプラクティスを確立して、データの改竄や偽情報に関する懸念に対処し、信頼性が高く正確なAIアウトプットを確保すべきである。
- パブリッククラウドの規模やイノベーション上の利点を取り入れ、既存のハイブリッドクラウドインフラストラクチャへの投資をAIやアナリティクスのワークロードに活用し、明確なビジネス価値や規制要件によって正当化される新たなプライベート環境の構築を検討すべきである。



ASEAN+の概要 (1/2)

背景

ASEANは2023年、データ保護とサイバーレジリエンシー、ハイブリッド/マルチクラウド環境におけるデータモビリティ、アプリケーションパフォーマンスとトランザクションスループットなどの課題に直面した。これらの課題はアジア太平洋地域全体の課題にほぼ共通しており、データに関連する問題と同様の様相を示している。2024年に向けて、データセキュリティは依然として地域のトップ優先事項であるが、ASEANはAIプロジェクトのデータプレパレーションとセルフサービス化に特に重点を置いている。このことは、AIのより効果的な活用に向けた戦略的シフトを示している。これによって、AI採用の世界的な傾向と一致する形で、AIをより効果的に活用することが期待される。

2023年のデータ駆動型イノベーションに関する主な課題

- 1 データ保護とサイバーレジリエンシーによる事業継続性と復旧の向上
- 2 ハイブリッド/マルチクラウド環境におけるデータモビリティ
- 3 アプリケーションパフォーマンスとトランザクションスループット

2024年のデータ管理における最優先事項

- 1 データセキュリティ
- 2 AIプロジェクト用のデータの準備
- 3 データ活用のセルフサービス化

重要課題 #1

AIの世界におけるデータの確保と保護

ASEAN企業は2024年、データのバックアップと復元、データセキュリティ、クラウドへのデータの移行を優先している。これらの優先事項は地域全体の重点項目とほぼ一致しており、AI時代におけるデータ保護に対する共通の懸念を示している。一方、ASEANにおけるクラウドへのデータ移行に重点を置く点は、地域の平均と比較してパブリッククラウド中心のモダナイズおよびDXを特に推進していることを示している。

2024年に企業が最優先しているイニシアティブ

- 1 データのバックアップと復元
- 2 データセキュリティ
- 3 クラウドへのデータの移行



重要課題 #2

AIモデルの健全性：データソースに対する誤情報の混入問題

ASEANにおけるAI/GenAI使用時のデータ品質に対する主な懸念事項には、偽の情報や誤った情報を用いたAIトレーニング、データ品質保証の欠如、不正確または欠落しているコードドキュメントがある。これらの懸念は地域全体の懸念事項とほぼ同じであり、AIプロジェクトにおけるデータの品質を確保するための共通の課題を示す。ただし、コードドキュメントとデータ品質保証に関する特定の懸念は、ASEANにおける規制コンプライアンスおよびデータガバナンスへの焦点の高さを示している可能性がある。

AI/GenAIの使用時のデータ品質に対する主な懸念事項

- 1 未知または未検知の偽情報や誤った情報を用いたAIトレーニング
- 2 データ品質保証の欠如
- 3 不正確な、または欠落しているコードドキュメント

社内でのAI/GenAIのさらなる利用を制限する

- 1 GenAI関連のデータおよび知的財産のコントロールが損なわれることへの懸念
- 2 社内におけるGenAIスキルや専門知識の不足
- 3 ビジネスニーズに沿った明確なユースケースの欠如

インサイト

業種別および市場別

日本
韓国
インド

ASEAN+

ANZ

AIインフラの概要

優先事項の用語集

Data Management
Playbook 2024 調査手法

スポンサーメッセージ
Lenovoを選ぶ理由

ASEAN+の概要 (2/2)

重要課題 #3 データのアーキテクチャと管理を正確に理解する

32% の組織が、データ管理
プラットフォームの複雑さが自社
の主要な課題であると強調した。

これは、さまざまなデータ環境や、複雑なデータ資産の管理に不慣れな点から、ASEANの企業がデータを効果的に管理するのに大きな課題に直面していることを示している。これによって、ASEANにおける統合されたデータ戦略の必要性を示している。

重要課題 #4 モデルの逆転：データ主導のインフラストラクチャ戦略

ASEANでは、DataOpsおよびハイブリッドクラウドソリューションに対する投資を優先している。また、ASEANではクラウドベンダーの活用依存度が高く（47%）、アジア太平洋地域平均の26%よりも高くなっている。これは、AIやビッグデータのワークロードの管理において拡張性、柔軟性、コスト効率が求められる中で、クラウドベースのインフラソリューションを採用する意欲がASEANの企業で高いことを示している。

2022年時点の見解

40%の企業が、今後2年間でAI、ビッグデータ、機械学習のワークロード要件がデジタルインフラストラクチャ戦略に大きな影響を与えると予測している。

Source: IDC syndicated research

その後の2023年の見解

DataOpsに対する投資が、企業のデジタルインフラストラクチャにおける最優先事項として認識されている。

CIOおよびITBDMの検討事項

- 社内データをデータレイクやデータウェアハウスなどのクラウド環境に移行、統合する包括的な計画を策定すべきである。
- DataOpsの専門チームを立ち上げてデータ管理を合理化し、継続的なデータフローと処理効率を確保すべきである。
- データの品質とAIモデルの健全性を確保するために、堅牢なデータガバナンスフレームワークを構築し、誤った情報を用いたAIトレーニングの防止と正確なコードドキュメントの確保を行うべきである。
- ビジネス目標に沿ったAIイニシアティブのための明確なユースケースを定義し、費用管理とROI追跡の基準を設定すべきである。



ANZの概要 (1/2)

地域別のインサイト

インサイト 業種別および市場別

- 日本
- 韓国
- インド
- ASEAN+
- ANZ
- AIインフラの概要
- 優先事項の用語集

Data Management Playbook 2024 調査手法

背景

2024年のデータに関する優先事項として、ANZ（Australia and New Zealand）の企業はデータセキュリティ、データ管理とガバナンス、AIプロジェクト用のデータの準備を挙げている。これらの優先事項はIDCの独自調査と一致しており、特にBFSI、政府、ヘルスケア業界において、データ保護と管理やサイバーレジリエンスを優先事項として特定している。ハイブリッドクラウドインフラストラクチャの推進は、オーストラリアの重要インフラストラクチャ安全保障法（SOCI）とその後の改正によって義務付けられている。そこでは、重要インフラとして特定された資産を管理する責任ある事業者に対して、運用上のレジリエンス（回復力）整備の必要性が説かれている。

2023年のデータ駆動型イノベーションに関する主な課題

- 1 データ保護とサイバーレジリエンスによる事業継続性と復旧の向上
- 2 ハイブリッド/マルチクラウド環境におけるデータモビリティ
- 3 エッジワークロード用のデータ管理

2024年のデータ管理における最優先事項

- 1 データセキュリティ
- 2 データの管理とガバナンス
- 3 AIプロジェクト用のデータの準備

重要課題 #1

AIの世界におけるデータの確保と保護

ANZの企業は2024年、地域全体の重点と同様、データセキュリティ、クラウドへの移行、データのバックアップ/復元を優先している。これらのイニシアティブは、信頼できるAIオペレーションを維持し、安全で信頼性の高いビジネスクリティカルなデータへの途切れることのないアクセスを確保するために不可欠である。

2024年に企業が最優先しているイニシアティブ

- 1 データセキュリティ
- 2 クラウドへのデータの移行
- 3 データのバックアップと復元



重要課題 #2

AIモデルの健全性：データソース に対する誤情報の混入問題

ANZの企業は、AIの利用におけるデータの品質、精度、セキュリティを最優先に懸念しており、運営やビジネスの懸念は優先度が低下しているように見受けられる。特にドキュメントの正確性と品質管理に対する集中が、ANZの厳格な規制環境や品質基準の影響であることが考えられる。

AI/GenAIの使用時のデータ品質に対する 主な懸念事項

- 1 不正確な、または欠落しているコードドキュメント
- 2 未知または未検知の偽情報や誤った情報を用いたAIトレーニング
- 3 ハルシネーションまたは無意味な/誤った情報の生成

社内でのAI/GenAIのさらなる利用を 制限する

- 1 精度または潜在的悪影響に関する懸念
- 2 GenAI関連のデータおよび知的財産のコントロールが損なわれることへの懸念
- 3 効果的な費用管理およびユースケースのROI手法の欠如

ANZの概要 (2/2)

重要課題 #3 データのアーキテクチャと管理を正確に理解する

24% の組織が、データ管理
プラットフォームの複雑さが自社
の主要な課題であると強調した。

ANZにおいて、主な課題としてデータ管理の複雑さを挙げる企業の割合が低い（アジア太平洋地域平均29%に対し24%）のは、ANZの企業が従来、他の地域と比較して、データを活用し、データの複雑さを管理してきたことから、データが比較的十分に管理されている環境であることを反映している。

重要課題 #4 モデルの逆転：データ主導のインフラストラクチャ戦略

ANZの企業は最新のAIイノベーション機能への迅速なアクセスを求めており、パブリッククラウドがAI要件に対する主な選択肢となっている。ただし、市場のかなりの割合の企業が新しいハイブリッドおよびマルチクラウドインフラストラクチャにも投資している。これは主に、より強力なデータ保護とガバナンスの必要性によるもので、重要産業に対する可用性とレジリエンシーに関するポリシーおよび規制要件がその一因となっている。

2022年時点の見解

40%の企業が、今後2年間でAI、ビッグデータ、機械学習のワークロード要件がデジタルインフラストラクチャに大きな影響を与えると予測している。

Source: IDC syndicated research

その後の2023年の見解

DataOps に対する投資が、企業のデータインフラストラクチャにおけるアーキテクチャの最優先事項とみなされている。

CIOおよびITBDMの検討事項

- 堅牢なデータセキュリティ対策およびガバナンスフレームワークを確立して、重要なインフラストラクチャを保護し、オーストラリアの重要インフラセキュリティ法 (SOCl) などの規制要件へのコンプライアンスを確保して、オペレーショナルレジリエンシーとデータの整合性を維持すべきである。
- AIイニシアティブをサポートする包括的なデータ品質および精度のプロトコルを確立して、詳細なドキュメントとガバナンスを確保すべきである。
- 堅牢なデータのバックアップと復元の戦略を策定して安全で信頼性の高いビジネスクリティカルなデータへの妨げられることのないアクセスを確保し、サイバーレジリエンシーを高めて信頼できるAIオペレーションを維持すべきである。
- 最新のAIイノベーションにアクセスするためのパブリッククラウドの使用とプライベートおよびマルチクラウド環境の要件をバランスよく取り入れたハイブリッドクラウド戦略を策定、実装して、厳格な規制およびレジリエンシー要件に対応し、柔軟で安全なAIオペレーションを確保すべきである。

地域別のインサイト

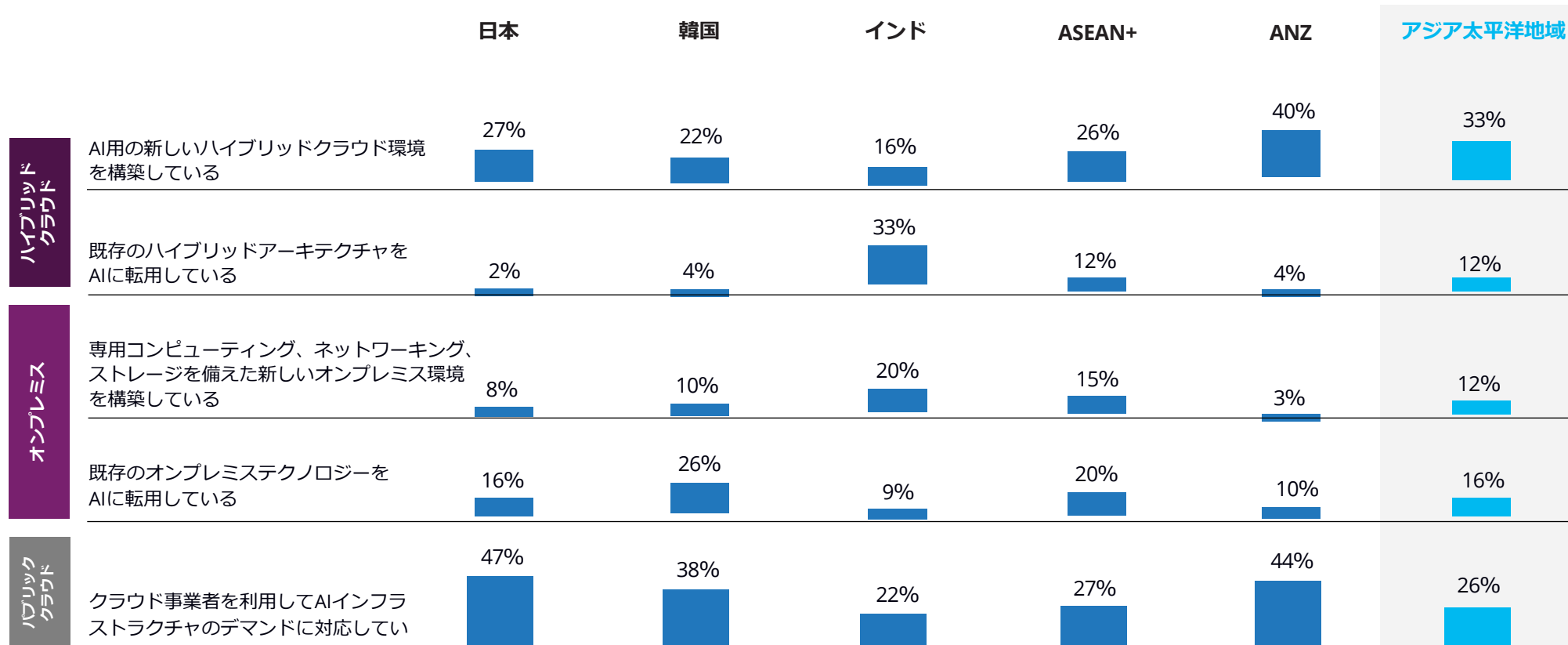
インサイト
業種別および市場別

- 日本
- 韓国
- インド
- ASEAN+
- ANZ
- AIインフラの概要
- 優先事項の用語集

Data Management
Playbook 2024 調査手法

AIインフラストラクチャ要件への対応 – 市場別

以下にアジア太平洋地域の企業がAIインフラストラクチャ要件に対応する際に優先的に使用するアプローチを示す。



優先事項の用語集

ここまでのセクションでは2024年のデータ管理における最優先事項を概説した。以下に各優先事項を定義、説明する詳細な用語集を示す。これは、優先されているデータ管理の重要な点を明らかにすることを目的としたものである。



データセキュリティ

定義：企業のデジタル情報を不正アクセス、漏洩、サイバー脅威から保護すること。これにはデータの機密性、整合性、可用性を確保する対策の実装が含まれる。暗号化、アクセス制御、侵入検知システムや、定期的なセキュリティ監査など、進化する脅威に対する堅固な防御を維持するためのさまざまなプラクティスがある。



データの管理とガバナンス

定義：企業のデータ資産管理のガイドとなるポリシー、手順、基準のフレームワーク。データ管理は、データの作成から取得、保管、使用、廃棄まで、ライフサイクル全体を対象とする。ガバナンスは、データの品質、一貫性、コンプライアンスを確保するのに必要な監督と説明責任を提供するものである。これには、役割と責任の決定、データ基準の定義、データのスケジュールシップと監視の実装プロセスが含まれる。



AIプロジェクト用のデータの準備

定義：AIアプリケーション要件に適合するようにデータを収集、クリーニング、変換、整理するプロセス。AIモデル/システムで使用されるデータを正確かつ完全に、関連の高いものとして高品質なアウトプットを確保する。データの準備には、データラングリング、正規化、フィーチャー（特徴量）エンジニアリングや、欠損/不整合データの処理などの活動が含まれる。



データの価値の明確化

定義：社内で効果的なデータ管理の重要性やメリットを伝達、認識する行為を指す。これには、データ駆動のインサイトによってビジネス価値が促進され、意思決定の精度が向上し、競争優位性が生み出されることの実証を含む。データの価値の明確化には、データイニシアティブの影響を測定する方法の開発、データ駆動の意思決定文化の促進、企業の主要目標に沿ったデータ戦略によって、リーダーシップの賛同とリソース割り当てを確保することが含まれる。



データ活用のセルフサービス化

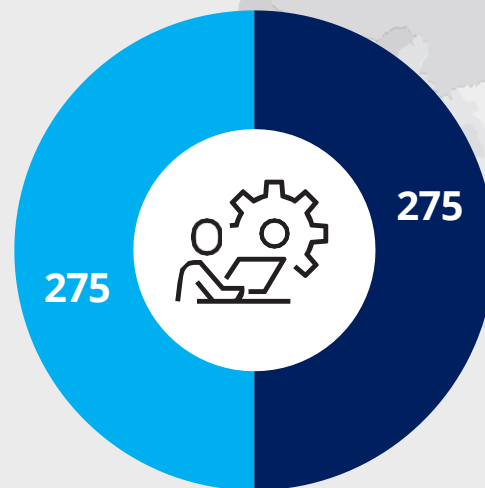
定義：高度な技術的専門知識の必要なしに、独力でデータにアクセスし分析、使用できるツールやプラットフォームを社内ユーザーに提供する。セルフサービスのデータツールは、直感的なインターフェース、ユーザーフレンドリーな視覚化ツール、一元的なデータリポジトリを提供して、従業員が十分なデータに基づいた意思決定を行えるようにするものである。このデータアクセスの民主化によって、広範なユーザーがインサイトを活用できるようにすることで、アジリティ、イノベーション、効率が促進される。

Data Management Playbook 2024 調査手法

調査手法

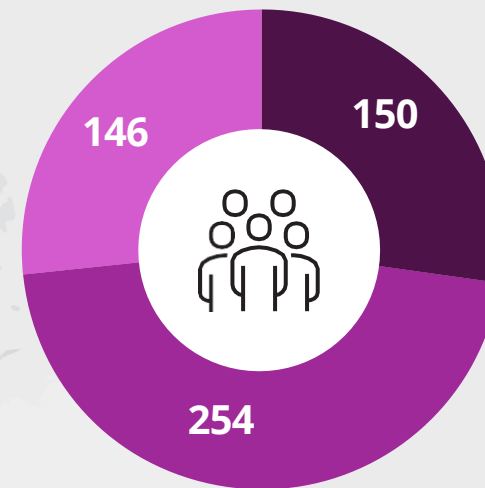
本Playbookは、550社の調査に基づいて作成された。回答者属性（サンプリング）の概要は以下の通りである。

対象市場	回答者数
 オーストラリア	50
 ニュージーランド	30
 日本	100
 韓国	50
 香港	30
 台湾	30
 シンガポール	50
 インドネシア	80
 タイ	30
 インド	100



役職別属性

- Cレベルの経営幹部
- Cレベル直下の管理職 (C-1)



企業規模（従業員数）別属性

- 500～999人
- 1,000～4,999人
- 5,000人以上

スポンサーメッセージ
レノボによるデータへのAIの導入

Lenovo

データ管理のスマート化

from Pocket to Cloud (ポケットからクラウドまで)

レノボのデータ管理ソリューションは、システム、プラットフォーム、ソフトウェアに対応し、エッジからコアデータセンター、クラウド展開まで、データ管理を最適化します。レノボはブロック、ファイル、オブジェクトデータを活用してアクション可能なインサイトを実現し、アプリケーションパフォーマンスを向上させます。レノボのソリューションは多様なITインフラストラクチャでシームレスなデータモビリティをサポートし、次世代のデータとAI/MLアプリケーションを推進します。

#5

グローバル・
ストレージ・
プロバイダー

世界5位の
ストレージプロバイダー

#1

2万5,000ドル
未満
のセグメント

2万5,000ドル未満のセグメントで
1位の市場リーダー



CRNの2023年
プロダクト・オブ・ザ・イヤー
レノボのThinkSystem DG



レノボが高速、シンプル、安全なデータソリューションを提供

HDDアレイと比べて最大6倍高速なパフォーマンスと50%低いコストを誇るレノボのソリューションで、データのパワーを迅速に引き出しましょう。ハイブリッドクラウドでデータ管理を合理化し、展開を最大85%高速化して業務効率を向上させます。ThinkSystem DGとDMのストレージソリューションと組み込みのランサムウェア保護によって、重要なビジネスデータを効果的に守りましょう。

顧客成功事例

株式会社サンポール

広島から世界に羽ばたくモノづくり、
それを支える LenovoのThinkSystem DM5000H

広島県広島市に本社を構え、車止め、旗ポール分野で市場トップシェアを誇るサンポールは、2021年、従来のファイルサーバーのリプレイスを検討し、その一環としてハードウェアの刷新を決断。新たなストレージ基盤としてLenovoの「ThinkSystem」シリーズを導入し、短期間かつ円滑な移行プロジェクトを成功させました。

島根銀行

レノボのThinkSystemシリーズと
プロフェッショナルサービスを活用し、
新仮想化基盤の構築と円滑なデータ移行を短期間で実現

2022年、情報系システムを中心とする仮想化基盤のリプレイスを決断した島根銀行は、ハードウェアの刷新を決断。新たな仮想化基盤のサーバープラットフォームとしてレノボの「ThinkSystem」シリーズを導入しました。また、ハードウェアに加え、レノボのプロフェッショナルサービスも併せて採用してデータ移行プロジェクトを実施しました。レノボのサービスチームの支援の下で、運用工数を短縮しつつ円滑に移行プロジェクトを成功させました。

分散型ストレージソリューション

革新的なストレージサービスを提供

オーストラリアの大手ストレージサービスプロバイダー、Filecoin ストレージサービスプロバイダー、DSS (Distributed Storage Solutions) は、レノボのTruScaleインフラストラクチャをサービスとして利用して迅速に拡張しました。Lenovo ThinkSystem DE6000H ストレージアレイによって、DSSは現在、高性能、大容量のストレージランドスケープを維持しており、TruScaleの柔軟な支払いモデル (Pay-as-You-Go) によって一貫した成長と費用対効果の高い成長を実現しています。



ストレージセントラルハブAPACをご覧ください
データ管理スマート化のワンストップソリューション



Lenovo

データから最大の価値を導出

エンタープライズストレージ、ハイパーコンバージドインフラストラクチャ (HCI)、ソフトウェア定義ストレージ (SDS : Software-Defined Storage)、バックアップと障害復旧など、Lenovoの包括的なポートフォリオと、高速でフレキシブル、効率的なLenovo TruScaleデータ管理ソリューションが、ビジネスのイノベーションを加速させます。



より迅速なデータインサイト

HDDアレイよりも最大6倍高速なパフォーマンスと50%低コスト



容易なデータ管理

展開を最大85%高速化



データ回復力を最大化

ThinkSystem DGおよびDMストレージにランサムウェア保護を搭載

ThinkSystem

エンタープライズストレージ

エンタープライズグレードのストレージソリューションは、Lenovoにお任せください。当社の製品は成長する仮想環境に対応し、現在の予算に合わせて、必要なときにデータを利用できるようにします。



DEシリーズ



DMシリーズ

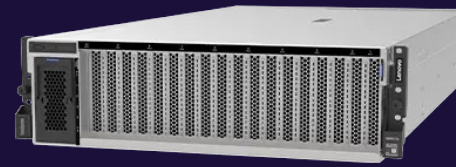


DGシリーズ



Dシリーズ

LenovoのThinkSystem SR675 V3を搭載したNetApp AIPOD™



NetApp AIPOD™ソリューションは、Lenovo ThinkSystem SR675 V3サーバー、NetApp C800 高パフォーマンスストレージ、NVIDIA L40S GPU、NVIDIA Spectrum-Xネットワークングプラットフォーム、NVIDIA AIエンタープライズソフトウェアプラットフォームで構成される、検証済みの新しい統合ソリューションです。

ThinkSystem

ソフトウェア定義ストレージ

業界をリードするLenovo ThinkSystemサーバーを基盤としたLenovoのソフトウェア定義ストレージソリューションは、パートナーであるWEKAおよびCloudianと共に、広範なユースケースに対応します。



AIアクセラレーテッドストレージ

ThinkSystem SR635 V3



オブジェクトストレージ

ThinkSystem SR650 V3



並列ファイルストレージ

ThinkSystem SR630 V3

Lenovo TruScale

Lenovo TruScaleは、最新のストレージインフラ管理を活用するための迅速で柔軟かつ非常にコスト効率の高い方法を提供します。従量課金モデルでの過剰プロビジョニングを排除し、過剰請求の不確実性を避け、柔軟にストレージ容量を調整して成長する要件に対応できます。

ストレージセントラルハブAPACをご覧ください
データ管理スマート化のワンストップソリューション



本調査レポートは、IDC Custom Solutionsによって作成されました。IDC Custom Solutionsグループは、情報技術／通信／コンシューマーテクノロジー市場に関するインテリジェンス、アドバイザリーサービス、およびイベントの大手グローバルプロバイダーとして、グローバル市場におけるクライアントの計画立案、マーケティング、販売、成功を支援しています。意思決定の基となる市場インテリジェンスを作成し、測定可能な結果をもたらす影響力の高いコンテンツマーケティングプログラムを立案します。



IDC Asia/Pacific

83 Clemenceau Avenue, #17-01 UE Square, West Wing, Singapore 239920

T 65.6226.0330



© 2024 IDC Research, Inc. IDCの資料は外部使用を意図してライセンスされており、IDCの調査の利用や公開は、IDCがスポンサーやライセンシーの製品や戦略を支持することを示すものではありません。